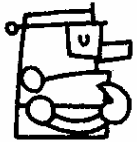


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

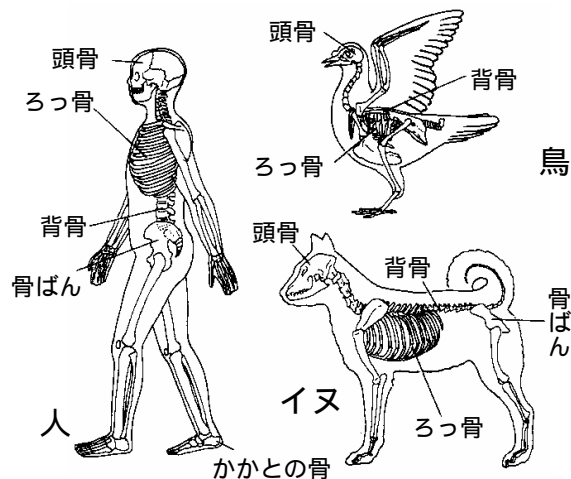
人間の体が、ほかの動物とちがうのは、どこなの



2本足で歩く体のつくりになっていて、手が自由に使え、
のう 脳や頭が大きいのが、ほかの動物とちがうところさ。

人間がほかの動物といちばんちがうのは、2本足で立って歩くということです。そのため、骨ばんは大きくなって上半身や内臓ないぞうをささえ、足やかかとなども、がちり全身をささえられるつくりになっています。4本足で歩くことが多いイヌや、人間に近いチンパンジーなどくらべてみると、人の骨ばんやかかとの骨が大きいのがわかります。

4本足で歩く動物は、人間の手にあたる前足を、歩くこと以外にあまり使えません。木の上でくらす動物は、手足が枝につかまったりぶら下がったりしやすい形をしています。人間の足や足のうらは、体がたおれないようにささえて歩くのに便利な形になり、手は、指先が細かく自由に動くようになりました。そのため、脳が発達し、いろいろな道具をつくり出し、使いこなすようになったといわれています。



せぼね 背骨のある動物は、体のつくりがにている

背骨のある動物は、背骨やろっ骨、骨ばんなどがあることや、食道、胃、腸などの食べ物を消化する体のつくりは、よくにています。

息すを吸って、肺から酸素を体内にとりこみ、二酸化炭素を出すことも共通しています。心臓しんぞうが血液を全身に送っていることも同じです。

もっと知りたい人へ：「背骨をもつ動物の、骨のつくりのちがいを教えて」も見てみよう。